

各 位

唐津農林事務所東松浦農業振興センター長

稲作情報第6号（普通期水稻）

1. 気象概要（アメダス：唐津地点）

月	半旬	平均気温			最高気温			最低気温			降水量			日照時間		
		本年値 ℃	平年値 ℃	平年差 ℃	本年値 ℃	平年値 ℃	平年差 ℃	本年値 ℃	平年値 ℃	平年差 ℃	本年値 mm	平年値 mm	平年差 (%)	本年値 時間	平年値 時間	平年差 (%)
7月	1	26.0	24.7	1.3	29.9	28.0	1.9	23.3	22.2	1.1	176.5	87.3	202	11.2	15.2	74
	2	26.6	25.3	1.3	29.9	28.7	1.2	23.9	22.8	1.1	280.5	92.9	302	12.6	19.9	63
	3	28.5	26.0	2.5	31.8	29.6	2.2	26.0	23.2	2.8	3.0	74.1	4	21.1	26.4	80
	4	27.8	26.6	1.2	32.7	30.5	2.2	24.9	23.6	1.3	19.0	45.1	42	29.5	31.7	93
	5	27.5	27.3	0.2	32.9	31.4	1.5	24.2	24.3	-0.1	56.5	26.5	213	31.2	35.6	88
	6	28.4	28.0	0.4	34.1	32.2	1.9	24.5	24.9	-0.4	10.5	24.5	43	55.6	47.6	117
8月	1	30.0	28.3	1.7	35.3	32.5	2.8	25.6	25.0	0.6	0.0	20.9	0	56.2	41.3	136

梅雨明け以降、高温・多照が続いている。最高気温が 35℃を超え、最低気温も 25℃近い日が続いている。8月9日から10日にかけて台風6号が九州地方に接近する予報である。

2. 生育状況（調査日：8月8日）

項目 品種 (設置場所)	年次	草丈 cm	茎数 本/m ²	主稈 出葉数 L	葉色 SPAD	概要
夢しずく 唐津市相知 町伊岐佐 6/12 移植 標高 70m	本年値	90.1	287	13 止葉	40.3	・草丈は高い ・茎数は少ない ・葉色は濃い ※平年値無し
	平年値	—	—	—	—	
項目 品種 (設置場所)	年次	草丈 cm	茎数 本/m ²	主幹 出葉数 L	葉色 SPAD	概要
さがびより 唐津市相知 町相知 6/21 移植	本年値	71.1	411	13.3	34.4	・草丈は平年並み ・茎数は平年より少ない ・出葉は平年より早い ・葉色は平年より薄い
	平年値	71.3	506	12.6	38.6	
	平年比	100	81	+0.7	-4.2	

(1) 山間早植え

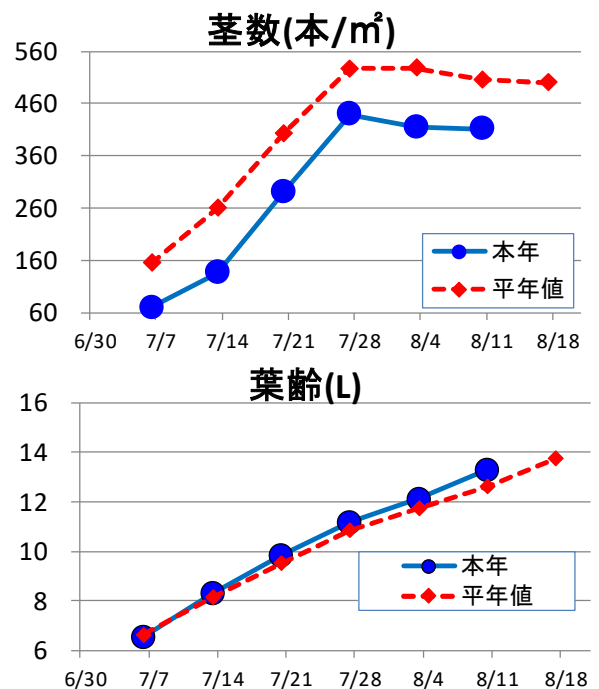
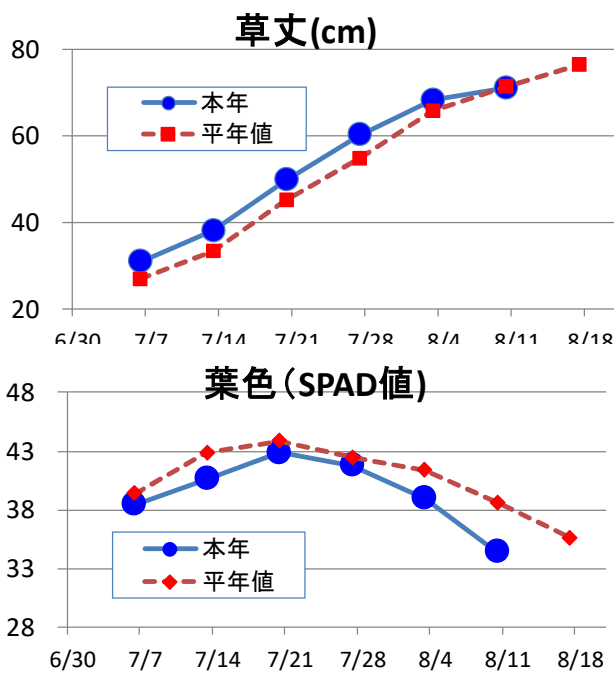
作況ほの「コシヒカリ」は8月1日に出穂期となり現在穂揃い期である。
今のところ、病害虫による大きな被害は出ていない。

(2) 普通期水稻

「夢しずく」:6月上旬に移植されたものは、分けつ茎の発生は順調に進み出穂期となっている。6月中旬以降移植については、7月上旬の長雨日照不足の影響で茎数は少なくなった。

「さがびより」:平年と比べて茎数が少なく、葉色は薄く推移している。8月8日に幼穂長3mmが確認でき、草丈は平年並みで葉色も薄く穂肥の施用時期となっている。

◎さがびより作況圖の生育グラフ(相知町相知)



3. 今後の管理

(1) 山間早植え

①栽培管理

- ・穂揃期はイネが開花し受粉をおこなうため、イネの一生の中で最も水を必要とする時期である。この時期に水が不足すると子実の充実不足につながる。出穂期から穂揃期は水を切らさないよう、圃場の水管理を徹底する。
- ・出穂期以降は強風による稲体へのダメージが大きくなるので、台風が接近する場合には深水管理を徹底する。

②病害虫管理

- ・「いもち病」の病斑が見られる場合は、地域の栽培暦に従って速やかに防除を行う。
特に上位葉に病斑がある場合は穂いもちが懸念されるので出穂前の防除を行う。
ただし、特別栽培認証制度を申請した圃場では、農薬成分カウント数に注意する。
- ・本年はトビイロウンカの飛来が連続しており、多発生が懸念される。発生予察情報、ほ場の発生状況を参考に適期防除に努める

いもち病防除薬剤

薬剤名 (成分名)	本剤の 使用回数	本成分の総使用回数	使用時期	注意事項
トライフロアブル (テブフロキン)	2回以内	2回以内	収穫14日前まで	
オリブライト250G (メミノストロビン)	1回以内	1回以内	出穂10日前まで ただし、収穫45日前まで	湛水散布
コラトップ粒剤5 (ピロキロン)	2回以内	本田2回以内	葉いもち: 初発10日前～初発時 穂いもち: 出穂30～5日前まで	湛水散布
ビーム粉剤DL (トリシクラゾール)	3回以内	本田3回以内	収穫7日前まで	穂ばらみ期での 散布効果が高い
ダブルカット粉剤3DL (カスガマイシン・トリシクラゾール)	2回以内	カスガマイシン: 本田2回以内 トリシクラゾール: 本田3回以内	穂ぞろい期まで	

(2) 普通期水稻

①栽培管理

- ・強風が吹くと稲体からの蒸散が大きくなるので、台風が接近する場合には深水管理とし、通過後には速やかに水の入れ替えを行い、再び間断灌水に移行する。
- ・「夢しずく」は出穂期を迎え用水を必要とする時期となるので、間断灌水を継続する。
- ・「さがびより」は穂肥施用の時期となるので、穂肥施用を行い間断灌水に移行する。
- ・なお、登熟期間後半も入水ができるようにするため、強度の中干しは避けて徐々に地を固めていくようにする。

【中干しの目的】

- ① 無効茎の発生防止や下位節間の伸張防止
- ② 窒素制限による生育量の適正化
- ③ 有害物質の除去及び土壌酸化による根の健全化
- ④ 地耐力を高め倒伏を防ぐ

②「さがびより」、「ヒノヒカリ」穂肥診断

- ・「さがびより」は穂肥施用の時期となっている。
- ・「ヒノヒカリ」は穂肥施用時期を過ぎているが施用していない場合は早急に行う。
- ・幼穂長を確認して下記の穂肥診断基準に基づいて穂肥を施用する。

1)「さがびより」の穂肥診断基準

早過ぎる穂肥は籾数の過剰につながるので注意する。

幼穂形成 始期草丈	葉色		施用時期		施用量
	群落	SPAD	出穂前	幼穂長	窒素成分 kg/10a
75cm 以下	3.0 以下	33 以下	20-18	5mm	3.0
	3.0 - 3.3	33-37	18-17	10mm	3.0
	3.5 - 3.8	37-38	17-16	15mm	2.0
	3.8 以上	39 以上	施用しない		
	3.0 - 3.3	36 以下	18-16	10~15mm	1.5
75 ~ 80cm	3.5 以上	37 以上	施用しない		
80cm 以上	施用しない				

草丈は幼穂形成始期(1mm)を基点に前後1日当たり1cm増減する。

○さがびより出穂前日数と幼穂伸長

出穂前日数(日)	主稈の幼穂長(mm)	
-22	1	← 幼穂形成始期
-20~ -18	3~5	
-18~ -16	10~15	← 穂肥施用時期の目安
-16~ -12	5~ 80	
-12~ -10	80~100	
-10~0	100~200	

2)「ヒノヒカリ」の穂肥診断基準

必要以上に籾数を付け過ぎない診断が必要

穂形成 始期草丈	葉色		施用時期		施用量
	群落	SPAD	出穂前	幼穂長	窒素成分 kg/10a
80cm 以 下	3.0 以下	34 以下	25-23	1-2mm	3.0
	3.0-3.3	35-38	22-20	3-5mm	3.0
	3.5-3.8	39-40	20-16	5-15mm	2.0
	3.8 以上	40 以上	16-12	15-30mm	1.0 以下
80cm 以 上	3.0-3.3	35-38	22-20	3-5mm	2.0
	3.5-3.8	39-40	20-16	5-15mm	1.5
	3.8 以上	40 以上	16-12	15-30mm	1.0 以下

草丈は幼穂形成始期(1mm)を基点に前後1日当たり1cm増減する。

○ヒノヒカリ出穂前日数と幼穂伸長

出穂前日数(日)	主稈の幼穂長(mm)
-23~-20	1~3
-20~-18	3~5
-18~-12	5~80
-12~-10	80~100
-7~0	100~200

←幼穂形成始期

←穂肥施用時期の目安

③病害虫管理

・山間地を中心に、いもち病の発生が見られている。置き苗はいもち病の発生源となるため早急に撤去する。特に上位葉に病斑がある場合は穂いもちが懸念されるので出穂前の防除を行う。なお、特裁申請している圃場では農薬成分カウント数に注意する。

・本年はトビイロウンカの飛来が連続しており、圃場内にも発生が見られる。発生予察情報を参考とし、ほ場の発生状況を確認して適期防除に努める。防除を行う場合には湛水をするとともに、株元まで薬剤が十分にかかるように散布する。

・地域によってはコブノメイガが発生している圃場が見られる。発生予察情報を参考としてほ場での発蛾最盛期(成虫発生盛期)を確認し、その1週間後に防除を行う。

トビイロウンカ発生予測（佐賀県農業技術防除センター情報を改編）



図1 トビイロウンカ各世代の発生予測（第2版、2023年7月25日作成）

1. 6月30日～7月3日頃(図では7月1日)、7月7日～9日(図では7月8日)の飛来虫を起点とし、佐賀市川副町の気温データより算出した有効積算温度(7月25日以降は平年値)を基に作成した。
2. 田植え時期、品種等の違いによって、本虫の発生量は異なるので、必ず圃場ごとの発生状況を確認したうえで、防除対策を講じる。
3. 今後の気象経過等に応じて、本図は随時、更新するので、最新情報は、農業技術防除センターのホームページで確認する。

コブノメイガ発生予測（佐賀県農業技術防除センター情報を改編）

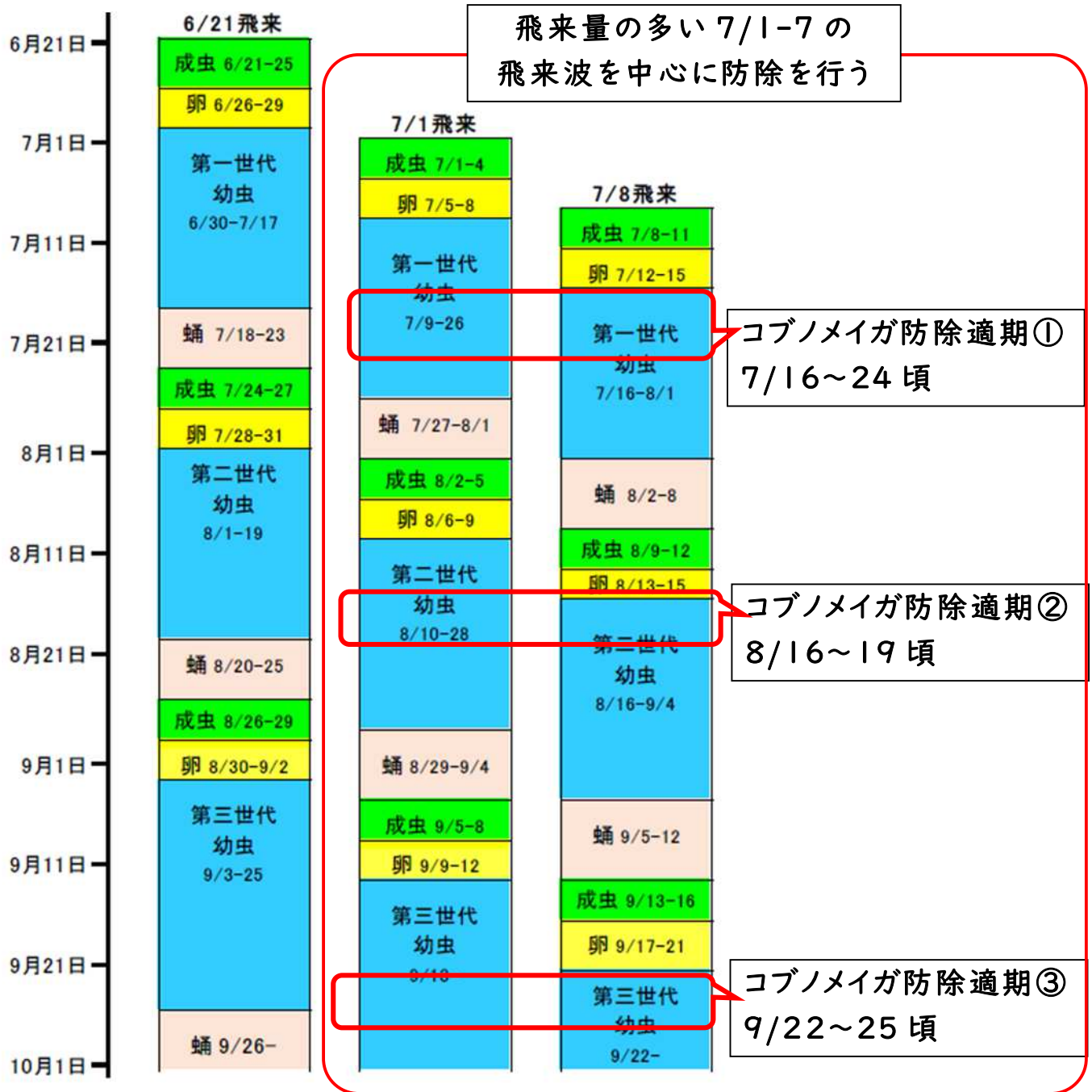


図2 コブノメイガ各世代の発生予測（第1版、2023年7月25日作成）

1. 6月21日頃、6月30日～7月3日頃(図では7月1日)、7月7日～9日(図では7月8日)の飛来虫を起点とし、佐賀市川副町の気温データより算出した有効積算温度(7月25日以降は平年値)を基に作成した。
2. 田植え時期、品種等の違いによって、本虫の発生量は異なるので、必ず圃場ごとの発生状況を確認したうえで、防除対策を講じる。
3. 今後の気象経過等に応じて、本図は随時、更新するので、最新情報は、農業技術防除センターのホームページで確認する。

令和5年産 稲作期間気象図

アメダス観測値(唐津)

東松浦農業振興センター
水田農業・畜産担当

